

副市長	桐谷 雅宣君
教育長	永留 和博君
総務部長	有江 正光君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	桐谷 和孝君
しまづくり推進部長	武末 祥人君
観光交流商工部長	二宮 照幸君
市民生活部長	俵 輝孝君
福祉保険部長	古里 正人君
健康づくり推進部長	荒木 静也君
農林水産部長	佐々木雅仁君
建設部長	小島 和美君
水道局長	波田 安德君
教育部長	阿比留裕史君
中対馬振興部長	佐伯 正君
上対馬振興部長	森山 忠昭君
美津島行政サービスセンター所長	瀧川 昌浩君
峰行政サービスセンター所長	田村 竜一君
上県行政サービスセンター所長	原田 勝彦君
消防長	主藤 庄司君
会計管理者	松井 恵夫君
監査委員事務局長	御手洗逸男君
農業委員会事務局長	庄司 智文君

午前10時00分開議

○議長（小川 廣康君） おはようございます。

ただいまから議事日程第2号により、本日の会議を開きます。

日程第1. 市政一般質問

○議長（小川 廣康君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は5人を予定しております。

それでは、届け出順に発言を許します。5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 皆さん、おはようございます。

会派つしまの小島徳重でございます。

天皇陛下の即位・改元に伴い、令和最初の議会を迎え、新たな気持ちでこの場に臨んでいます。任期も折り返しを迎え、スローガンとして掲げている「聴きます市民の声、届けます市議会へ、活かします対馬づくりに」を改めて肝に銘じ、議会人としての責務を果たしてまいりたいと思います。

それでは、通告に従い2項目お尋ねします。

1項目めとして、日本人観光客増による観光業活性化についてお尋ねします。

韓国からの観光客は年ごとに増加していますが、国内からの観光客数は伸び悩んでいます。韓国人観光客に偏った状態は、対馬市の観光産業として安定性を欠き、日本人観光客の増加は対馬市の長年の課題であると考えます。日本人観光客の誘客による観光産業の活性化について、次の4点について市長の見解を伺います。

1点目、国内への情報発信、PRは十分に行われているか。

2点目、対馬ファン、対馬へのリピーターをふやす施策は十分か。

3点目、修学旅行、滞在型研修等の誘致をもっと推進すべきではないか。

4点目、対馬版DMOの設立に向けた取り組みは、どのように進められているか。

次に、2項目めとして、近代化遺産の文化財指定と観光資源としての活用について伺います。

1点目、近代化遺産である砲台群等を早急に文化財に指定し、観光資源としてもっと活用すべきであると考えます。教育長、市長の見解を求めます。

2点目、その近代化遺産の中の一つである、竹敷要港部に関連して掘削された万関運河も文化財等に指定し、観光スポットとしての価値を高めるべきであると考えます。教育長、市長の見解を伺います。

以上、2項目について、簡潔明瞭な御答弁をお願いをいたします。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） おはようございます。

小島議員の御質問にお答えいたします。

初めに、日本人観光客増による観光業活性化についてでございますが、日本国内と対馬をつなぐ交通機関の利用客数は、平成14年の57万6,220人をピークに、年々下降の一途をたどっていましたが、平成23年の46万1,241人を底として徐々に増加し、昨年は48万7,731人まで回復してきております。日本人観光客の実数の把握はなかなか困難でございますが、飛行機及び航路利用者で、島民カードを利用した人数を差し引いた数が、平成30年で約13万4,000人でございます。この数字の中には、ビジネス客や帰省客といった方々も含ま

れていますが、大体、14万人前後で横ばい状態となっている状況でございます。韓国観光客が41万人を超えている状況ではございますが、一つの国に偏ったインバウンドということで、不安定な要素がないとは言えません。日本人観光客の誘致にはこれまで同様、積極的に取り組みを進めてまいりたいと考えております。

国内への情報発信、PRにつきましては、特に、福岡市や大阪市といった、都市圏をターゲットにした情報発信活動を展開しておりまして、福岡事務所からのSNS発信や博多駅デジタルサイネージジャック、各種メディア対応、福岡市・九州離島広域連携事業、有人国境離島新法による旅行商品の販売、各地での観光物産等で観光PR等を継続して実施しております。

対馬ファン、リピーターをふやす政策についてでございますが、対馬の魅力は何と云っても自然と歴史でございます。昨年は、NHKで、日本トレッキング100や、アンゴルモアのアニメを利用された歴史秘話ヒストリアの放送もございました。また、最近では、前川清さんの笑顔まんてんタビ好きの収録があっており、来る6月30日の正午から放送される予定となっております。ぜひ、ごらんいただきたいと思っております。

そのほか、国内の大手キャンプ事業所とタイアップしたキャンプイベントの実施や、朝鮮通信使の世界記憶遺産、並びに日本遺産といったコンテンツのPRに加え、観光案内板やWi-Fiの整備、観光アプリの提供を実施しており、自然や歴史のコアな対馬ファンの獲得事業を継続して展開しております。

また、滞在型観光に向けた取り組みを進めておりまして、浅茅湾クルージングなど、もう1泊したくなるようなメニュー開発を、ANA総研さんや関係事業者とともに進めているところでございます。

修学旅行の誘致につきましては、長崎県とともに誘致を進めておりまして、昨年は、東京都、神奈川県から2校、120人が修学旅行や研修旅行で対馬を訪問しています。残念ながら、長崎県内の学校の修学旅行は来ておりませんが、民泊を活用した体験型修学旅行の需要も高まっています。今後も長崎県観光連盟とともに、修学旅行の誘致活動を継続してまいりたいと考えております。

滞在型研修等の誘致といたしましては、これまで、韓国観光客の増に伴うホテル等の予約困難により、誘致数が伸びませんでした。新しい宿泊施設の完成に伴い、受け入れ、キャパシティも増えてまいりました。これにより、約700人が集まります全国離島交流中学生野球大会、いわゆる離島甲子園の誘致や、長崎県消防団大会など、県内の会議、大会の誘致、また、域学連携などによる実習、または研究生約600人の誘致など積極的に行っております。今後も継続して推進してまいりたいと思っております。

次に、対馬版DMOの関係でございますけれども、官公庁が推進しておりますDMO設立につい

てでございますが、これは、地域資源を最大限に活用し、効果的で効率的な集客を図り、稼げる観光地づくりを行うかじ取り役となる法人の設立を目指すものでございます。誰がどこでどのように進めていくのか、引き続き研究を進めてまいります。現在、長崎県対馬振興局とともに、おもてなし協議会の設立に向けた協議をしているところでございます。この延長線上に、対馬版DMOが見えてくるのではないかと考えているところでございまして、この活動の状況を見きわめてまいりたいと考えております。

次に、近代化遺産の文化財指定と観光資源としての活用についてでございますが、観光資源としての活用について私のほうからお答えし、文化財の指定につきましては、後から教育長に答えてまいります。

対馬の砲台は、日清戦争、日露戦争、太平洋戦争の3時代分で31カ所あり、特に浅茅湾に面した場所や、下島に多く存在しております。しかしながら、砲台跡への観光客はまだまだ少なく、上見坂砲台や豊砲台といったアクセス道が整備されているところ以外は、極端に少ない状況でございます。4月に、姫神山砲台跡が市の文化財に指定され、新聞報道等により、観光物産協会等にアクセスに関する問い合わせが多く寄せられております。徒歩により移動するにはかなりの距離がありますので、アクセス道路の整備を急ぎたいというふうに考えております。

このように、砲台跡は、軍事的、土木遺産的観光資源としての可能性を秘めており、関係部署と協議しながら、観光資源としても活用してまいりたいと考えております。

万関橋を中心とした一帯は、昔から多くの観光客が訪れておりまして、対馬の代表的な観光スポットとして認識されていることは言うまでもありません。1900年に旧海軍が開削し、日露戦争では水雷艇部隊が通過するなど、坂の上の雲の時代の軍事的要衝、歴史的観光資源としての活用が期待されております。現在、長崎県とともに、トイレの洋式化や観光案内板、駐車場の整備を協議しておりまして、今後も、歴史的観光資源の一つとして一体的な整備を進めてまいりたいと考えております。

私のほうからは以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 小島議員の御質問にお答えします。

平成26年6月の対馬市議会定例会におきまして、議員から、軍事遺跡の調査、保存、活用についての一般質問を受け、対馬市文化財保護審議会の中に近代化遺産調査研究部会を設けました。約3年を費し、市の文化財指定を視野に、有識者の指導、助言を受けながら、関連する遺跡の調査研究を行ってまいりました。

その調査結果は、平成29年度第2回対馬市文化財保護審議会にて報告され、美津島町竹敷の旧海軍要港部水雷艇ドック跡、昼ヶ浦の芋崎砲台跡、緒方の姫神山砲台跡、上対馬町の豊砲台跡

の4カ所について、保存状態も良好で、近代史の各分野において学術研究上重要な意義を有する遺跡であると位置づけられました。

砲台跡は対馬全土に多数残っていますが、竣工した時期から大きく3期に分けられます。その各期から、遺構の残存状態やアクセス等も含め、建築技術や土木工学上価値が高いと思われる前述の3カ所が選ばれたものです。その結果をもとに、地域や地権者の方々への説明等を行い、先に準備が整ったのが姫神山砲台跡であり、まずは準備が整ったところから、市の文化財としての指定を行うことといたしました。

対馬市文化財保護審議会に指定について諮問し、対馬市指定文化財として相当であるとの答申をいただきましたので、ことし4月15日の対馬市教育委員会会議に諮り、正式に対馬市の指定文化財として承認されました。残る2つの砲台跡につきましては、残念ながら地権者の同意を得ることができていない状況です。

竹敷の深浦水雷艇隊基地跡につきましては、平成23年に公益法人土木学会から土木遺産に認定され、また、本年4月9日には長崎県のまちづくり景観資産として登録されております。その水雷艇ドック跡の石積み等は、農地海岸として実質、長崎県が管理をしております。今後は、関係機関と協議を進めながら、市の文化財の指定に向けて慎重に検討をしていきたいと考えております。

また、万関運河に関しましても、同じく4月9日に長崎県のまちづくり景観資産として登録されました。竹敷を拠点とした当時の水雷艇の移動のために掘られ、極めて重要な軍事的役割を果たしたことは否めません。しかし、文化財的価値及びその範囲の指定や現状を保存、維持して後世に継承していくためには、文化財として指定する必要性の有無について、詳しく調査、研究する必要があるかと思われまます。

さきの近代化遺産調査研究部会の報告におきましては、万関運河については、極めて重要な軍事的意義があったとされておりますが、市の文化財として保存することに関しては記載がありませんでした。教育委員会といたしましては、万関運河を文化財に指定することの緊急性については、現在のところ小さいものと考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） どうも、御答弁ありがとうございました。

まず、日本人観光客の誘客について市長のほうから、4項目にわたって説明いただいたところですけども、その中で、確かに成果をあらわしている部分もありますし、これからまだ、今から研究、あるいはいろんな関係機関との調整等を進めなきゃいけないこともあるということですけども、わかりやすい実態例として、一つ数字を挙げてみたいと思うんですけども、これは、長崎

県と離島の各自治体が一緒になって取り組んでいるしま旅滞在促進事業についての昨年度の数字でございます。

これを見ていただいてわかるように、壱岐市は1万2,800人の誘客があったと、それから五島市は5,930人の誘客があった。それから、上五島は3,500人の誘客があったという数字が出ています。

私どもの対馬には1,800人の方がこの事業でおいでになったと、これは対馬においでいただいた観光客の数の中のいわゆる島旅にかかる部分だけですから、これが全てではないんですけども、これは私が商工観光部からいただいた資料の中の具体的なものですから、これを土台にして少し質問をしたいと思うんです。

市長、これ見られて所感というか感想をいかがでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私もこの数値を見まして、当初は何でこんなに対馬が低いのかなということで、いろいろと分析をいたしました。まず、島旅につきましては、壱岐対馬の島旅ということでセットになっているということでございます。

そういう中で、特に、この数値は宿泊をしたということでの数値でございますので、聞くところによりますと、対馬のほうは韓国人観光客が多かったせいもあるかとは思いますが、なかなか旅館、ホテル等の予約等がとりづらいというようなことで、その宿泊は、壱岐のほうに行っているケースが想定されるというようなことございました。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 昨年も、この時期に私、このことについては数字示して、お尋ねしたときの市長の御答弁も宿泊施設に限度があるとそういうことで大変厳しいんだという御答弁をされたと思います。

しかし、それから年度変わって新しいホテルもできたと、これは、美津島地区、あるいは厳原地区に数百単位の施設ができたんですよ。けども、相変わらず対馬には宿泊していただけないというのは、やはりただ単にセットになった部分だけではないと思うんです。

壱岐には、単位が1万2,000という数です。この数です、そしたら、全部壱岐から来た人たちが対馬通って帰ったかというところじゃない、壱岐までの人も結構な数があったというふう聞いています。

そういう中で、やはり、誘客といいますか対馬のPRというのが弱いというか、やはり何か問題があるんじゃないかというふうを感じるんです。折角、市長お答えいただいたように自然とか、あるいは歴史、文化ということで、評価していただいている中で、やっぱり、連続このような対

馬だけが宿泊数で7.5%と。

これは上五島の数よりも3分の1、五島よりの数からしても、上五島の半分、それから五島の3分の1、この数字というのは、やはり、何か、もう少し分析をして、今後に生かすべきだろうと思うんです。

で、昨年の分析ということで、おっしゃったんですが、これどこの部署でどういうふうな対馬市として、あるいは観光物産協会なり、あるいは商工会なりとの間で分析をされたか、そのあたりもし具体的な場があったら説明してみてください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私も、この資料は福岡市・九州離島広域連携事業の会議の中でも、この資料の提示がございまして、その際にも何で対馬のほうがこれだけ数が少ないんだろうかというようなことも質問もさせていただきました。

そのときに、まず、先ほども申しましたように、一番の大きな要因は、宿泊施設がなかなか島のほうは取りづらいと、旅行者の関係がそういった話をしているということを聞いた次第でございます。

それから、対馬市の観光商工部の担当職員のほうとも、その話について、このような状況だったという話をしながら、今後の対策を練っていこうということで、今現在、進めているところでございます。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） まあいろんな対策、分析はされたんだと。

分析をした後の、具体的に施策としてどう打ち出すかという部分で、やはり1年、2年経過していく中で、同じような状況というのは、見逃したらいけないと思うから、市長もそういう場でも質問もされたし、関係部長にもそういう指示もされたんだろうと思います。

このことを例一つとっても、やはり対馬が本土からの観光客数が伸び悩んでいるという、そのことを深刻に受けとめるべきだと思うのです。その中でDMOのことをお尋ねしました。

このことについての状況についても答弁がありましたけど、これを進めない限り同じような状況が、僕は続くんじゃないかと思うんです。そのあたりについて、DMOの取り組みについてはどのように進んでいるか、もう少し具体的に説明をいただきたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） DMOにつきましては、先ほども答弁いたしましたように現在、正直なところ、まだまだ思うように進んでないという状況でございます。

と申しますのも、観光物産協会との関連で、DMOと観光物産協会と両方が立ち会った場合に、

ここがどうなるのかと、そこが今一番難しいところでございます、そこを今いろいろと詰めていると、そしてまた、先ほども申しましたように振興局のほうともおもてなし協議会を設立するように進めておりまして、このおもてなし協議会との関連も含めて検討をしていきたいというふうに、今現在、考えているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 今、ここにパネル示しましたけど、市長がお答えになったように、これは対馬市の観光振興推進計画の中から図示してあるものを示したものです。それで、今おっしゃったように観光物産協会、それから協議会、この組織があつて、そして、行政、対馬市があつてと。

どうしても、やはり、この部分、赤で囲んだDMOに向けて頑張りたいというのが市の大きな方針なわけですから、これやっぱり昨年市長が答弁されたのが、こういうことになっていますよ。6月議会では、「観光商工部初めとして協議を進めているところでございます」という答弁です。

だから私、9月もう1回確認をしたら、「観光による地域づくりを実現するための戦略策定やかじ取り役となるというDMOの設立についても関係団体や観光事業者を含めた勉強会等を早急に開催したい」という答弁があつています。

それで、1年間たつて、具体的にどう進んだかということになってきます。このことについては、この必要性については私が述べるまでもなく市長よく御存じだと思うんです。

DMOがあるかないかによって、物産協会との関係も含めてなんですが、あるかないかによって、どういうふうに観光の活性化が違うかということ、市長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 確かに、観光DMOを立ち上げるということは、DMOとして運営をしていくために、それなりの資金が必要となってまいります。

これが米国の関係のほうでは、この運営費を取得するために宿泊税とか、そういったところを各ホテルから集めるような施策もされているようではございますけども、対馬市といたしましては、まだまだそこまでには至ってないというような状況でもございますし、まず、その運営費をどのような形で捻出していくか、そしてまた、観光物産協会とのすみ分けをどうしていくか、こちら辺を早急に進めていきたいと思っております。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 2月に会派の研修で奄美大島に行かせていただいたんです。その中で大島の観光物産、ここは連盟と呼んでいました。

ここが母体となってDMO資格を得たと、それが今年の12月だったそうです。ちょうど行っ

たときに資格を得たからということで、観光庁からのお墨つきもらったということで、新聞報道がされていたから私も現地の新聞で見たんですけど。

それ、どう違うかということをお島の観光物産の事務局長さんにお話を聞いたら、国からの補助金が出ると、補助金は2分の1出ると、そして、そのあと今度は国からの2分の1について自治体負担分については、国からの措置がされると、だから予算面ですごく助かると。

そして、何よりも情報が、このDMOネットワークというのが全国的につながりがあるんです、官公庁がつくった。その中で全国の情報が得られる、そして、先ほど言った観光客、どこの地域の人 coming いるか、それからどういう狙いで対馬に来ているか、そういうこと全て分析できるような仕組み、システムができ上がっていると、そういうことで大きく自分たちの大島は変わってきましたよと、大島の場合も、だから島で言えば観光物産協会が母体となって準備期間を置いて、DMOの資格を取得したということです。だから対馬市も物産協会という基礎となる母体あるわけです。あとは行政と商工会なりいろんな関係事業団体です。ここにあります。関係業者が書いてありますように行政を始めとしていろんな運行運送業者、それから宿泊業者、それから農・漁業の従事者、いろんな方々の総合的なものを取りまとめるためには、今の観光物産協会体制とシステムでは弱いから、DMO化しなきゃいけないということなんです。

だから長崎県は県としてはあるけれども、各自治体ではまずないんです。だからぜひ、このことは市長、公約を、去年答弁もされているんですから、1年間たった上でまた、これまでの情報を踏まえて進めていただきたいと、そのことを県当局ともまた関係もあるでしょうけども、もう一度つくります、つくることに向けて進みますよということを言明してほしいと思います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） このDMOにつきましては、必要性については、私はぜひとも設立を目指さなければならないものというふうに考えているところでございます。

ただ、現実、まだまだ立ち上がっていないと、おくれているということにつきましては、申しわけないというふうに思っております。今後、早期に設立が可能となるように進めてまいりたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） それから観光関係について、市長一応これを軸にDMOの設立を目指して進むということですから、1年前からのことを踏まえながら、ぜひ進めていただきたいということをお願いしておきます。

それから情報発信について、昨年私は、この議会の中で浅茅湾を世界で最も美しい湾クラブに申請したらどうかということをおし上げました。

そのときに研究したいということですが、この対馬を代表する景観の地の浅茅湾、世

界の湾クラブへの準備はどのように1年間進みましたか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私のほうでは、そのところ答弁することはできませんので、担当部長のほうに答弁させます。

○議長（小川 廣康君） 観光交流商工部長、二宮照幸君。

○観光交流商工部長（二宮 照幸君） その部分につきましては、まだちょっと先に進んでいない状況でございます。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） ちょっと残念なんですけど、このことについても去年の答弁そういうふうにしてあるわけですよね。研究をしたいと、申請に向けてということで、「早速研究したい」というふうに市長答弁されましたよ。これ議事録見たらわかりますけどね。

だから、このことの取り組み一つ見ても情報発信とか島をPRするという点では、まだまだ対馬市弱いんじゃないかと。

浅茅湾の景色、特に、今、韓国からのお客さんを初めとして、烏帽子岳からの景色については、これは誰もが認めているわけですね。市長には、手元に渡してはいたけども、平成13年に対馬新聞に載った斎藤彰さんという読売新聞の。これはワシントン支局長された方ですよね。

その方が書いてある文言見ていただいたら、世界的なジャーナリストの方が対馬を故郷を思って書いた記事を見ていただくと、ただ単に対馬、私たちはその存在感はわかりにくいけども、ものすごく価値の高いものとして見てあります。だから、ぜひ、これは進めていただきたいと。

それからもう1点、同じく自然景観のことでユネスコエコパークへの関係を進めたいと、島旅としての誘客を図るためにも、そういうユネスコエコパークへの申請、これは市の総合計画の中に載っていることです。このことの取り組みについてはどうなっていますか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほどの浅茅湾の関係でございますけども、これは私も佐世保市のほうが、九十九島がその指定になったということはお聞きしておりました。

それで、今後、また関係部局のほうとも綿密に打ち合わせしながら進めてまいりたいと思います。

それと、エコパークのほうにつきましては、今現在、ちょっと作業のほうが中断をしているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） エコパークについても、ぜひ、これは市の総合計画の中で取り上げてある大きな柱ですから、これは浅茅湾を含め、だけじゃないんですね。生物多様性のことも

含めて対馬市が自然に恵まれ景観が素晴らしいんだということを世界にアピールできる世界的な規模のこれは取り組みを市は方針として掲げてあるわけですから、中断をしているという市長の御答弁ですけども、これもぜひ推進をしていただきたいと思います。

そのことについて、御答弁があればお願いします。

○議長（小川 廣康君） 観光交流商工部長、二宮照幸君。

○観光交流商工部長（二宮 照幸君） エコパークへの申請につきましては、指定に向けての少し難しいという部分がございますけども、現在は、対馬高校の生徒さんにボランティア等で活動いただきまして、希少野生動植物の保全に向けた活動を行っているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 対馬高校さんの取り組みをお聞きしています。そういうやっぱりちっちゃな取り組みというか、それぞれの立場での取り組みをしていく、それを総合的にやっぱり、エコパークとして取りまとめるのは市の行政の大きな仕事だろうと思います。そのことをよく踏まえていただきたいなというふうに思っています。

それから、次の文化財関係のことについて確認をしたいと思います。教育長から答弁があったように、姫神山砲台をまず文化財としていただいたということについては歓迎をしたいと思えますし、その関係のいろいろ調査研究をされたり、された方々あるいは事務局の方々の御苦労はねぎらいたいというか、大きな一歩だというふうに思っています。ただこれは、教育長答弁にもあったように、ただ一歩ですよ。一歩であって、調査研究部会から答申があった4つですね。残りの3つですね。これについても文化財としての価値を認めるというふうな報告書が上がっていると思うんですが、そのことは間違いないですね。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 文化財としての価値は、文化財保護審議会の中でも認められております。ただ、指定をするには地権者の了解であるとか、いろんな手続上まだもう少し時間を要するというので、今は同意を得られたものから指定をした次第でございます。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） このことについても確かに文化財というのは学術的な研究、そういう分析があって成り立つということは私も理解はします。それにしても、私議会で提言してから指定まで丸5年ですよ。やっぱりこれはちょっと、時間かかり過ぎじゃないかと思うんですよ。やはりそのあたりは、もっとスピード感を持った取り組みをしていただきたいな。なぜなら、私、議会で梅野教育長さんのときに提言をして「取り組みます」と言われてから、実際に動き出したのは、調査研究部会が発足したのは1年後ですよ。で、調査研究3年間かかりました。確かに研究を深めなきゃいけないところもあったと思います。3年間のうち会議は年に2回から

3回程度しかなかったですね。答申が出てからもまた、委員会で指定するまでに1年間またかかっていますよね。そのあたりは事務局も多分多忙だろうし、調査委員会の方々もいろんな都合もあるんでしょうけど、やはりそのあたりのことをもう少しスピード感を持った取り組みを欲しいなというふうに思います。

ただ、残ったところについて、これは地権者の同意がなかったらいけないというのが文化財のいわゆる法令の法律の中に、文化財保護法の中にそうありますからね。これは、その同意を得るための努力は引き続き行っていただきたいなと思うんですよ。

対馬市の場合やっぱ埋蔵文化財とか宗家文書とかいろんなそういう貴重なものがたくさんあって、文化財課がたくさん仕事を抱えながら大変だろうというのはわかりますけど、この近代化遺産は今やはり日本の中でも戦争遺跡も含めて、近代化遺産というのほどこも観光に活用しようということで力を入れているわけですから、そのあたりを踏まえた対応、これは委員会だけじゃなくて観光商工部やあるいはしまづくりの部署と相談しながら進めていただきたいなというふうに思います。

それで、文化財じゃなくて、文化財指定でなくて、例えばわかりやすい例が万関なんかそうですね。これは文化財としての確認は、ここを掘り切ったのはもう明治期の120年前のことですから、確認がしにくい。しかし文化財でなくて文化遺産としての取扱いは考えられたことはありますか。文化財としてではなくて、文化遺産としての活用を。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 先ほど答弁の中で申し上げましたように、万関運河につきましては文化財としてはどうかと疑問にまだ思う点もあるということをお答えしましたけれども、文化遺産としては、まちづくり景観資産登録等もしてことしの4月当初に指定もいただきました。文化遺産としての価値はあるというふうには捉えています。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 市長のほうにちょっと確認をしたいと思います。市長、よろしいですか。

今、教育委員会のほうは文化財として扱うのはなかなか微妙なところがある。特に万関はそうだとことなんですね。現状が変わっているから。その後改修されたりして。その場合、今日本国内の流れでも観光利用としては文化遺産としての活用というのが進んでいるんです。佐賀県なんかは佐賀県遺産ということで、景観も含めてそれから文化財としての学術的な裏づけがしにくいもの、景観とか食べ物、食事とか伝統食、こういうものを含めた佐賀県遺産。あるいは北海道は、北海道遺産という取扱いをして観光活用を進めようとしています。

そのあたりについて、市長、お考えをお聞かせください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） ちょっと、突然のことでなかなか難しいと思いますけども、ただ私もこの万関運河については、実は国交省の政務官がお見えになったときに一緒に視察をしたときにお聞きしたんですけど、要は今の万関橋はあと万関運河がもう少し幅を広げるために橋のほうを余裕を持ってつくっているらしいんですね。そういうこともありまして、そうするともしこの浅茅湾の関係で今の運河が広げることになるような場合には、文化財の指定とかそういうのをしとったときに支障にならんかなというようなことは私もちよっと考えておりましたので、そこら辺はいろいろと今後また協議しながら、必要であればあそこら辺も進めてまいりたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 今、市長も万関運河という言葉を使っていただきましたけど、まさにこれ運河なんですよ。人工的に切り開いたわけですから。俗称、私たちは万関瀬戸とかよく呼んでいますけど、瀬戸ではないわけで運河なんですよ。運河ということが、これは国家の仕事として、対馬がいかに重要なポイントであったかと、要港部と合わせて、それで切り開いた運河だということを強調していただく。そして文化財としての指定は難しくても、いわゆる今言った近代化遺産、対馬全体の砲台を含めて、竹敷要港部を含めて、対馬要塞遺産と、こう名づけてもっと対馬をPR、アピールすべきだと思うんです。これは現在の対馬が置かれた状況、国境の島としての役割とつながってくるわけです。そうすることがいろいろ対馬市が国や県にいろんなことを要望するときも、明治期から対馬はこんなに重要なポイントでしたという意味で必要だと思うんです。対馬要塞遺産ということの確認と、それからもう一つは、烏帽子岳からの景色、豆碓崎からの景色、景色なんかは何も文化財の調査はいらぬわけです。こういうものを含めた、食べ物を含めた対馬遺産という考え方を持つべきじゃないかと思いますが、市長、最後に所見があったらお聞かせください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まだ今それをどうするという事は、ここでは控えたいと思いますけども、もう少し今後いろいろと勉強してまいりたいというふうに思います。

○議員（5番 小島 徳重君） 終わります。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩をいたします。再開を11時5分からといたします。

午前10時50分休憩